

## 11号 特集 就労支援への新たな挑戦

日本の経済状況は相変わらず芳しくない。ただでさえ就職難といわれる時代に、障害を持って生きる人たちがいわゆる「一般就労」の仕事を見つけるのは容易ではない。しかし、こんな時代だからこそ、改めて人間にとっての働くことの意味を問い直すこともできるのではないだろうか。働くことをどう考えるのか、何を求めて人は働くのか、障害のあるなしに関わらず、誰もが直面することである。ここに、精神障害者が働くということにこだわる人たちがいる。その実践はまだ始まったばかりだが、活動の方向性や視点の据え方には、これからの時代の人間の働き方を考える上で示唆に富むポイントが多くある。そして何よりも、精神障害をもつ人たちが生き生きと働いている姿がある。そこから新しい就労支援の方法が見えてくるのである。